

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」 を合言葉に、木曽川上下流交流・連携を一層 進めていきましょう！

～みんな・みんなの会、9年目スタート～

10月16日(日)午後1時から、名古屋市中企業振興会館で、みんな・みんなの会第7回総会と木曽川上下流交流・連携の集いを開催しました。

総会では、事務局長・河崎から2015年度の活動・会計、2016年度の活動方針、そして規約改正などの報告や説明があり、事務局の近藤からは木祖村大豆作り・味噌造りプロジェクトの会計報告があり、それぞれ承認されました。今回の規約改正は、人事の変動でした。共同代表として河崎、事務局長に近藤、事務局次長に鈴木、という新たな体制でみんな・みんなの会の9年目をスタートすることになりました。よろしくお願いします。

続いて、「大豆作り・味噌造りから見てきた木曽川上下流交流・連携とこれから」というテーマで木曽町の小池糍店の唐沢尚之さんと大豆作りプロジェクトリーダーの近藤進さんのパネラー2人のパネルディスカッションを行いました。

近藤さんは、農薬を使わない大豆作りから上流域の人たちとの信頼関係を少しずつ構築できてきた経緯や今後の課題として作付規模の拡大、上流域での共同生産体制の構築などを話しました。

唐沢さんからは、小池糍店の味噌造り（特に玉造り製法）がその土地ならではの食文化を守り続けることにつながり、最近では「発酵の学校」と

して東京の大学との交流が活発になっていることや大豆作り・味噌造りは上下流交流を通して上流域社会を元気にする取り組みの一つとして機能していることなどが話されました。

その後、二人を交えてのディスカッションとなりました。上下流交流の継続のためには、お互いにメリットのある経済的結びつきが重要であること、下流から上流へ人の流れが起き始めている昨今の状況下で両者をつなげるコーディネイターの存在が不可欠などの意見が出されました。

また、王滝村へ移住された参加者から、厳しい過疎の現状と、増え始めた下流域からの移住希望者をどう受け入れるのが課題だ、という上流からのメッセージもいただきました。最後に、ほころびがひどくなる日本社会で、サブシステムを作る時代に来ているとの新代表からの問題提起を受け、終了となりました。みんな・みんなの会の活動の転換点となる総会だったのではないかと感じました。「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」木曽川上下流交流・連携を一層進めていきましょう。（報告・鈴木）

自信と誇りを持って水源の里を引き継ぐ

全国水源の里シンポジウムに900人が参加

第10回全国水源の里シンポジウムが2016年10月26日、京都府綾部市で開催されました。こ

れまでの10年間を振り返りながら、これからの10年に向けて課題や方向性を話し合う今回の

シンポジウムに全国各地から約 900 人が参加。はじめに全国水源の里連絡協議会会長で綾部市長の山崎善也氏が「水源の里が生まれて 10 年になります。今一度、水源の里の魅力と連携の必要性を確認しあって、次の世代につなげていくための話し合いを期待している」とあいさつ。

綾部市に水源の里条例が施行されたのが 2007 年。発足当時から今日まで、綾部の水源の里連絡協議会を担って活躍してきた老富町の酒井聖義さんへ山崎市長が特別表彰＝写真＝を行いました



た。続いて、全国水源の里フォトコンテストの表彰式、そして養老孟司さんが「今を幸せに生きる～これからの地域の在り方～」と題した講演を行いました。

次に実践報告として「水源の里・老富」代表の西田昌一さん、「水源の里・古屋」代表の渡邊和重さんが発表。西田さんは「廃村の危機の中で水源の里条例は一筋の光。住民に目標ができ、地域が活気づき、笑顔と笑い声が山間部に響き渡って

いる。新たに 5 世帯が入居した」と報告し、今後の取り組みとして働き場所の創出や公共交通網の充実、鳥獣害対策などの必要性を述べました。渡邊さんは「廃村にしたいくない強い思いから地元、行政、ボランティアの三位一体で活動してきた」「今が一番幸せ。毎日すべき仕事があり、交流があり、話し相手がある。自分は社会に必要とされていると感じるから頑張れる」と語りました。

「水源の里が創る新しい時代」をテーマに、パネルディスカッション。島根県中山間地域研究センター・藤山浩さんが「自分たちの文化を選び取った自治体に移住を希望する人びとに選ばれている。住民が地域を磨く。地域外から購入していた金額の 1 % 分のモノやサービスを地域の中でお金を回したり、人口の 1 % にあたる定住者を地域や集落の中で増やしていく」と語りました。山崎市長は「都会ではできない自己実現を田舎でしたい人が増えてきている。市内には地元が自らの地域に来てほしい人を選んだ事例もある」と述べました。会場からの発言として、みん・みんの会は木曾川流域の上下流交流・連携の取り組みとして『木曾川流域図』づくりや上流の木祖村や木曾町での大豆作り・味噌造り、上流の高校生たちのベンチや木製玩具の作品を下流の名古屋市の施設へ贈呈していることなどを紹介しました。

「未来に生きる子どもたちに自信と誇りを持って水源の里を引き継いでいく」との大会アピールを採択し、次回は滋賀県の米原市で開催することを確認して、シンポジウムを終わりました。

2017 年は米原へ行きましょう。(河崎)

「水源の里 光野・老富」を訪れて

10 月 27 日に参加した視察・研修は「水源の里 光野（みつの）、老富（おいとみ）」の 2 箇所を訪れるコースで、二つの里ともとても元気なお年寄りが、熱心に案内と「里自慢」をしてくれた。

光野では地域の宝探しの中で見つかった「大太鼓」＝写真＝が印象に残った。あれほどの大太鼓はどれほどのケヤキの巨木から作られるのだろう。あらためて光野の豊かな自然の力を感じさせられた。

老富では特産の枳餅をご馳走になりながらお話を伺った。高齢化率 74.7 パーセントで「廃村」寸前の集落が、人口も高齢化率も改善できた力の



源はどこにあるのだろうか。枳餅作りという時間も手間もかかる仕事を「都会の人を呼び込む」「地域の宝探し」という住民の共通目標にシッカリ位

置付け、集落の「つながり」を最大限活かして取り組んだことにそれがあのような気がする。

地域にある「宝」は、そこに住む人々の「つな

がり」があって光輝くのだろう。そんなことを教えられた視察研修であった。二つの地区の皆さんにあらためて感謝。(杉戸)

「栃の実の里、古屋に生きる」～都市部のボランティアが支える～

綾部市古屋（こや）には、86歳から92歳の女性3人と自治会長である65歳の男性1人＝写真＝の4人が「水源の里」となった10年前から暮らしています。空き家は集落を出て行った人たちの所有のまま残されています。「水源の里」の話し合いが始まった頃には、高齢の3人の女性たちには過疎化にあきらめの気持ちが強かったのです。話しているうちにこんな山の中に行政が光を当てることなどなかったし、京都のまちが開ける前からの古い歴史のある集落を自分たちの代で廃村にしたいという気持ちが湧き出てきました。

みんなの気持ちが一つになって、古屋の栃の実の特産品を製品化して販売し、自分たちの力で生きていくことを総意で決めました。

以来高齢の3人はバイクで通い、大変な手間ひまのかかる栃の実のアク抜きまでの力仕事を続けながら、早朝からトチ餅やおかきを作り販売しています。

この3人の生きる姿は、若い人や京都などの近



隣の人たちを惹き付け、最近は年間3,000人ものボランティアが栃の実拾い、山道補修、鹿を防ぐネット張りなどの山仕事で古屋に集まっているのです。なかでも有志の人たちは、会費で自主応援組織「古屋でがんばろう会」を都市部で作って、水源の里を守る暮らしを支えています。(水原)

10月30日、七宗町「おいでよ ふる里まつり」に参加



若い人たちに交じって躍動する井戸町長＝10月30日七宗町

10月30日、七宗町「おいでよ ふる里まつり」が七宗町体育館にて行われ、みん・みんの会はブースを出して味噌「みなもと」や「木曽川流域図」

等の販売を行いました。

七宗町内外からブース出店があり地元J Aや商工会、フリーマーケット等子どもたちが賑やかなお祭りでした。踊りや太鼓などにも子どもが加わり、他の市町のグループの参加も祭りを盛り上げていました。

祭りの後、国道41号線沿いにある「飛水食品」を訪ね、「豆腐匠」渡邊さんとお会いすることができました。

この店は、来る度にいろいろと手を加えられており、今回は飛騨川河畔からのライブ映像を店内のモニターで見ることができるようになりました。店の中にいながら飛騨川を眺めつつ「心太」（ところてん）をいただくという趣向です。皆さんもぜひお出かけください。(近藤)

2016年の大豆作りを振り返って

～ 6 年間の中で、収穫量は最大～

2016 年「みん・みん楽作隊」の活動は、木曽川源流の里・長野県木祖村にある約 180 坪の畑で 5 月から 11 月まで、毎月行いました。

5 月の種まきから 6 月の苗の植え付け、そして草取りにつぐ草取り…。夏の味噌の天地返しに楽しい交流会。秋の収穫と殻たたき。長いようでアッという間の一年でした。

畑の土づくりから畝づくりマルチ張りをしてくださった「高原荘」の笹川さん夫妻、そして木祖村の方々、味噌造りを引き受けてくださっている木曽町の唐沢さんをはじめ小池糰店の方々、そして、作業に参加してくださった方々の汗の結晶が大豆や黒豆になりました。

今年は大豆の発芽が思うようにいかず、苗不足を木祖村の方々が補ってくださいました。感謝、感謝です。

ポップコーン用のトウモロコシは鳥害を防ぐために上部に糸を張ったのですが、張り方が悪く、隙間から見事に入り込まれて全滅となってしまいました。子どもたちの楽しみが、なくなって残念です。

10 月の収穫は天候にも恵まれ、家族参加の方も交えて賑やかに楽しむことが出来ました＝写真。

11 月の殻たたきは大変でした。天候には二日



間共に恵まれたのですが、二日目の午後から笹川さんのお父さんが応援に駆けつけてくれて無事終了することができました。

収量は選別前ですが大豆、黒豆合わせて 108 kg でした。これは今までの「みん・みん楽作隊」の活動の中で最高の収量でした。例年は 90kg ぐらいですから、「嬉しいが大変」といったところ。

2017 年は、種を新しくして取り組み、草取り作業改善を一部試行してみたいと考えています。

みん・みんの会の大豆作り・味噌造りプロジェクトである「みん・みん楽作隊」に参加しませんか。済んだ空気、きれいな空、山と緑に囲まれて、一緒に大豆作り・味噌造りをしましょう。(近藤)

長野県花き試験場一般公開に参加して

10 月 15 日、塩尻市にある長野県花き試験場が一般公開され、圃場見学や農業体験、技術相談等が行われました。

木祖村で笹川さんにお世話になりながら大豆を作って 6 年、大きな連作障害にもあっていませんが、今後の生産技術の相談や大豆生産の拡大・地産地消の可能性を考える上での課題を明らかにすることも大切だと思いました。

私たちが作っている大豆は、地元で作り続けられている大豆と「たちながは」という二種類です。「たちながは」は新しい品種に改良され、「すずほまれ」と名付けられているとのことでした。この品種の特徴は機械で収穫しやすいように一斉に枯れるようになったものだそうです。

今まで種の発芽がうまくできなかった原因もいろいろ教えてもらったり、笹川さんが毎年土づくりのために「堆肥」を入れてくれているのは「大変良いことで、連作障害の防止に役立っている」と評価してくれました。

現在の私たちの 3 畝（180 坪）の畑で 90kg の収穫、選別後に 70kg 前後というのは全国的に見ても結構

いい成績であることが分かりました。相談に応じてくれた技術員の方は丁寧に話を聞いてくださり、大豆作りで地域おこしを考える時にはプロジェクトを立ち上げて行政に働きかけていく方法も提案してくれました。

会場では笹川さんとも合流し、短い時間でしたが話もできました。いろいろ収穫の多い訪問でした。
(近藤)

『木曽川流域図～木曽川、飛騨川、愛知用水水の旅～』をご覧になりましたか

上流域の山や森から小さなしずくが生まれ、それが小川となり、合流しながら川となって下流に流れていきます。私たちは木曽川の恵みを受けています。毎日使っている生活水を思い浮かべてください。その水は、どこから来ていますか。どの川、地下水・伏流水のどこから取水していますか。浄水場はどこでしょうか。その工程があって、私たちの蛇口に川の水がやってきます。

木曽川は、長野県、岐阜県、愛知県、三重県の775万人に生活水、農業用水、工業用水として供給しています。

木曽川は、どこが源流の出発点でしょうか。木曽川の最大の支流・飛騨川は、どうでしょうか。愛知用水は、どこを流れて知多半島、そして篠島や日間賀島などの島々に行っているのでしょうか。そんな「問い」に“見える化”しようと『木曽川流域図』を2012年作りました。川の流れの「現場」を身体で知りたい、見たい、感じたいと思って、上流域や知多半島へ出かけました。

2年近い制作を通して、多くの人に会い、川の話聞きました。

岐阜県と長野県にまたがっている御嶽山は、標

高3,067mで広大な裾野を持っている雄大な森と滝の山です。滝は1,200あります。降った雨は、一つは木曽川に、もう一つは飛騨川に流れ込みます。『木曽川流域図』は、この「集水域」が、はっきりと分かる地図です。

木曽川の上流域と下流域をどこで区切ったと



思いますか。私たちは歴史的・地形的に考えて、決めました。犬山城、犬山頭首工＝写真＝などがある犬山市です。

この点もフルカラーの『木曽川流域図』で、一目瞭然にしています。ぜひ、ご覧ください。

☆『木曽川流域図』は1部800円です（送料は実費）。

申し込みはFAXかメール、郵便でお願いします。

木曽川水源の里基金を活用して

木曽青峰高校生がベンチ、木製玩具づくり

みん・みんの会の発足当初に設立した木曽川水源の里基金。下流域の多くの人たちが、名古屋生

活クラブやアイチョイスなどを通して上流域の商品を購入し、その販売価格の2%を水源の里基



私たちが作ったおもちゃで楽しんで下さい」と高校生
＝2015年3月、名古屋市科学館で

金として積み立ててきました。その水源の里基金を活用して、木曽町にある長野県木曽青峰高校インテリア科の高校生に、2011年からベンチや木製玩具などを制作依頼し、名古屋市の東山動植物園、名古屋城天守閣、名古屋市科学館などへ作品を贈呈してきました。

今年度も2017年3月に、間伐材で作った木製玩具を科学館に贈呈する予定です。現在インテリア科3年生の6人が、木のおもちゃを制作しています。どんなおもちゃが出来るのでしょうか！？

機会がありましたら、科学館2階のウッディプレイランドへお出かけ下さい。今までに贈った木のおもちゃで楽しめます。(かわさき)

第2回小水力発電サミットに行ってきました！

12月1日～3日、金沢市で行われた「第2回全国小水力発電大会 in 金沢」に参加しました。日本全国で数十～数百kwの小規模水力発電に取り組む自治体関係者や機器メーカーが集い、3日間にわたり開催されました。京都大学教授の諸富徹さんの講演に始まり、二日目には7つの分科会で様々なテーマで議論がなされ、最終日は開催地・金沢で中小水力発電所の見学と多様な内容で取り组まれました。また、発電用水車などの水力発電機器メーカーのプレゼンブースが常設され、

情報交流や商談の場としてにぎわっていました。

小水力発電は再生可能エネルギー固定価格買取制度が発足して以後、太陽光や風力と共に脚光を浴びるようになりました。特に小水力発電は、過疎・高齢化に苦しむ上流域で地域おこしや域内エネルギー自給を目的に取り組むケースが急速に増えているようです。仕事の関係上、私が参加したのは二日目だけでしたが、小水力発電への熱意を十分に感じられ、楽しい時間を共有することが出来ました。(鈴木)

<編集後記> 2016年も大変お世話になりました。忙しく動き回った1年でした。大きな転換期に来ていることを感じる出来事が、地球の様々なところで起きています。「いのちより大事な仕事はない」とのお母さんの言葉が、心に響きました。

2017年もよろしくお願いします。(かわ)

☆☆☆第7期木曽川流域

水源の里基金へ募金の

ご協力をお願いします☆☆☆

<郵便振込口座>

口座番号； 00810-1-158556

加入者名； みる・みるの会

(水源の里基金と記してください)

水源の里を守ろう

木曽川流域みる・みるの会

☆共同代表☆

河崎典夫、伊澤眞一（名古屋生活クラブ）

☆顧問： 斎藤まこと（名古屋市議）

山根みちよ（日進市議）

☆連絡先☆ 〒464-0075

名古屋市千種区内山3-7-11 斎藤事務所気付

TEL 052(745)1001 FAX 052(741)2588

HP: <http://www.kisogawaminmin1.net/>

e-mail: suigennosato@gmail.com